

全国結核予防婦人会だより

発行●公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-3-12 TEL 03-3292-9288

2024.7

No.141



2024年度
複十字シール图案
デザイン:あさいとおる氏

健康の輪



元気に長生き！健康日本21



健康日本21推進全国連絡協議会

編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

第28回結核予防関係婦人団体中央講習会



令和6年2月7日水曜日から8日木曜日の2日間にわたり、東京都千代田区のKKRホテル東京において、結核予防会総裁秋篠宮皇嗣妃殿下のご臨席のもと、第28回結核予防関係婦人団体中央講習会が開催されました。開講式では、秋篠宮皇嗣妃殿下よりお言葉を賜りました。

第75回結核予防全国大会開催



令和6年3月14日木曜日から15日金曜日の2日間にわたり、東京都新宿区のリーガロイヤルホテル東京において、結核予防会総裁秋篠宮皇嗣妃殿下のご臨席のもとに、第75回結核予防全国大会が開催されました。

大会式典では、秋篠宮皇嗣妃殿下よりお言葉を賜りました。また、大会式典で第27回秩父宮妃記念結核予防功労賞表彰式が行われました。全国結核予防婦人団体連絡協議会からも事業功労賞個人部門で、北海道健康をまもる地域団体連合会の齋藤ヨシ子会長が受賞し、秋篠宮皇嗣妃殿下より表彰状が授与されました。

(お言葉は本誌2ページに掲載)

第二十八回 結核予防関係婦人団体中央講習会 総裁お言葉

令和六年二月七日（水）

はじめに、この度の令和六年能登半島地震により被災された方々へ心よりお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々に哀悼の意を表します。この中央講習会には、被災地から参加されている方々がいらつしやるの伺いました。また被災された方々の心身の健康を、そして生活を案じている方々もいらつしやると思ひます。被災された方々が安心して暮らすことができるようになりまことを願っております。

本日、「第二十八回結核予防関係婦人団体中央講習会」の開講式にあたり、全国より集られた皆さまにお会いできましたことを大変うれしく思います。

これまで長きにわたり、全国の結核予防婦人会は結核予防について、普及啓発活動、検診奨励、複十字シール運動など、きめ細やかに力を尽くしてこられました。皆さまをはじめ多くの関係者の努力により、二〇二二年には、日本の結核罹患率は、（人口十万人対）八・二となり、前年に引き続き、罹患率が一〇・〇未満とする「低まん延国」の水準を達成しています。

しかし、今でも年間一万人以上が新たに結核患者として登録され、一千六百人以上が命を落としております。そのため、厚生労働省や結核予防会など関係団体が改定した「ストップ結核ジャパンアクションプラン」では、二〇二五年までに罹患率を七とすることを目標として、高齢者や外国出生者など結核に罹患するリスクの高い人々に対する対策の強化や結核菌に感染している人の発病を予防する治療の推進などの活動がおこなわれています。

一方、WHO（世界保健機関）の報告によれば、世界では、二〇二二年の一年間に約一千六十万人が結核に罹患し、約一三〇万人が結核によって亡くなりました。SDGs（国連持続可能開発目標）の保健分野での目標の一つは、二〇三〇年までに結核蔓延を終息させることです。この目標達成に向けて、日本の結核対策に携わる関係者みながこれまでの経験を活かして積極的に貢献していくことが求められています。

婦人会が進めている「複十字シール運動」による募金は、国際協力にも役立てられており、その理解を深めるために、婦人会はカンボジア結核対策スタディツアーをおこなってきました。しばらくコロナ禍により中断していましたが、昨年の十二月に、四年ぶりに再開しました。今回のツアーでは、カンボジア滞在中に、結核のモバイル健診の見学をしたり、国立結核センターの病院とヘルスセンターを訪れて、カンボジアの結核予防会の取り組みや結核対策について説明を受けられたりしました。複十字シール運動が、このようにカンボジアをはじめ、他のアジアやアフリカの国々での結核予防活動を支えていることを、大変ありがたく思っております。

暦の上では春を迎えましたが、まだ寒い日が続いています。冷え込みだり、寒さが和らいだりするこの時節を、どうぞご体調に気をつけてお過ごしください。そして、本日と明日におこなわれる感染症や呼吸器疾患などについて深く学べる講演や、参加者がお互いの話に傾聴し、寄り添う経験を大切に情報交換会の場が、今後の皆さまの活動に少しでもお役に立つ機会となりますことを願ひ、開講式に寄せる言葉といたします。

第七十五回 結核予防全国大会 総裁お言葉

令和六年三月十五日（金）

はじめに、この度の能登半島地震により被災された方々へ心よりお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々に哀悼の意を表します。

石川県支部では、被災地での健康診断の再開に向けて準備を始めており、また石川県の婦人会では、被災者の支援活動をおこなっているの伺いました。そして一部の結核予防施設からは災害支援ナースが避難所の支援に参加したと聞いております。震災の影響を受けた多くの人々の健康が守られますよう、皆さまと共に心から願っております。

本日、「第七十五回結核予防全国大会」がここ東京都において開催され、皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

本大会におきまして、「第二十七回秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰を受けられる皆さまに心よりお祝いを申し上げます。またこの度の受賞者をはじめ、長年にわたり結核対策に貢献された方々に深く敬意を表します。

日本における結核の現状を見ますと、罹患率は着実に低下し、二〇二一年には低まん延国となりました。しかし、いまだに年間約一万人以上が新たに結核を発症しております。また、八十歳以上の患者の割合が全体の約四割を超えているほか、若年層では、外国出生者の割合が約八割となるなどの課題を抱えています。

一方、世界では、WHO（世界保健機関）の推定で、一千六十万人が結核に罹患し、百三十万人が命を落としていると報告されています。二〇三〇年までに結核を終息させるというSDGs（国連持続可能開発目標）の達成に向けて、国内での対策を着実に進めていくことがとても大切です。そのために、医療従事者も含め広く人々へ結核についての正しい知識と情報を伝える必要があります。例えば、高齢者や外国生まれの人々に伝わるように、分かりやすい言葉を使い、必要に応じてイラストや実物を提示するなど、説明の仕方を工夫することも重要なこととでしょう。

本日の午後の研鑽集会では、テーマ「あらためて公衆衛生としての結核対策を考える」のもとで結核・呼吸器感染症対策についての講演をはじめ、高齢者の結核、外国出生者の結核、結核病床の課題、関東甲信越地区の婦人会活動について発表がありました。コロナ禍の経験を活かし、地域住民の高齢化や多様な背景をもつ住民の増加にに応じたこれからの結核対策を、新たな感染症や疾病の対策と併せて進めていく上で、学びを深めることができました。皆さまの日頃からの結核対策への取り組みを伺ひ、心強く思います。

本大会に集う皆さまが、ご自身の健康に留意しながら、これからもそれぞれの専門性を活かし、協力・連携し、結核対策をさらに進めていかれますことを願ひ、式典に寄せる言葉といたします。

第75回結核予防全国大会決議文

2022年の結核新登録患者数は10,235人、罹患率は人口10万対8.2になり、前年の9.2から更に低まん延化が進んだ。これは、結核対策が浸透してきたことに加えて、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）の影響による受診控え、健康診断の停滞、入国制限による外国出生者の減少等の関与も考えられる。わが国との交流が盛んな東南アジア等では結核がいまだまん延している状況を考慮すれば、今後、結核患者の増加が懸念される。

コロナの経験を踏まえ、今後わが国の結核根絶に向けて、患者の早期発見と確実な治療を実行するとともに、超高齢者・外国出生者等のハイリスクグループへの対策強化、低まん延状態に即した医療体制の再構築、革新的技術の研究・開発等を重点課題として取り組む必要がある。

世界では2022年に過去最多の750万人の患者が報告された。コロナの影響の解消と積極的な患者発見の努力の成果であるが、なおWHOの推定患者数1,060万人の約3割が報告されていない。2023年9月に開催された国連総会結核ハイレベル会合では、2030年までの結核終息戦略の目標達成に向けて、対策の一層の推進とそのための資金の確保などを含む政治宣言が採択された。このため、薬剤耐性結核や潜在性結核感染症の診断・治療の強化、革新的技術の研究開発と早期導入が必要である。また、市民社会の関与や多様な関係機関が果たす役割の強化、コロナの経験を踏まえた感染症に強い医療システムの構築などあらゆる対策が求められている。

以上から、本大会は、国及び地方公共団体、医療機関及び結核予防会、全国結核予防婦人団体連絡協議会等の関係団体が力を合わせ、次の4項目について努力することを決議する。

- 一、日本における結核の根絶を目指して、超高齢者・外国出生者などのハイリスクグループに重点を置きつつ、予防啓発・早期発見、結核医療対策の更なる推進をすること。
- 一、コロナの経験も踏まえて、結核および呼吸器感染症への対策や、医療がより適切に実施されるように公衆衛生部門の強化及び感染症医療体制の再編を促すこと。
- 一、国連総会結核ハイレベル会合の政治宣言に基づき、世界の結核終息戦略の目標達成に向けて、革新的な技術開発とその普及に積極的に取り組むとともに、日本の結核対策の経験を活かした国際協力を一層推進すること。
- 一、全国結核予防婦人団体連絡協議会は、関係団体と協力して結核および呼吸器感染症の予防のために、国民に対する正しい知識の普及・啓発を推進し、複十字シール運動をなお一層活性化すること。

令和6年3月15日

第75回結核予防全国大会

3月24日 世界結核デー 結核予防会総裁おことば



3月24日の世界結核デーにあたり、国際結核・肺疾患予防連合の名誉会員であられる、結核予防会総裁秋篠宮皇嗣妃殿下より、英文でおことばを賜りました。

WORLD TB DAY 24 March 2024

This World TB Day, H.I.H. Crown Princess Akishino of Japan, an Honorary Member of The Union and Patroness of the Japan Anti-Tuberculosis Association, and a committed global TB advocate, issued the following message:

"I would like to express my sincere respects to healthcare workers who have contributed to the remarkable recovery from the severe impact of COVID-19. While we see substantial progress in the prevention and treatment of COVID-19, tuberculosis remains a leading cause of death and human suffering in many countries and areas.

Large numbers of people are still threatened today not only by infectious diseases, but also by disasters such as conflicts and wars, and earthquakes and floods. I would like to send my sympathies to people who suffer such severe hardship and express my gratitude to all healthcare workers and professionals, who continue working hard caring for people's lives and health in the face of difficult circumstances themselves.

Although tuberculosis is still a severe problem around the world, there is some good news. That is, the development of new technologies such as battery-operated X-ray units, and promising steps towards more effective vaccines. I hope that the widespread use of such technologies will benefit all people by protecting them against tuberculosis, especially vulnerable people such as children, women, and the elderly, and that better diagnosis, prevention and treatment of tuberculosis will become available.

On World TB Day, let us gather our strength and say "Yes! We can end TB!"

(原文) <https://theunion.org/news/message-from-hih-japan-2024>

医療関係者の皆様のご尽力により、COVID-19の深刻な影響からめざましい回復を果たしたことに、心から敬意を表します。COVID-19の予防と治療に大きな進歩が見られる一方で、結核はいまだに多くの国や地域で主要な死亡原因であり、人々の苦しみの大きな要因となっています。

また今日、感染症だけでなく、紛争や戦争、地震や水害などの脅威にさらされている方も大勢いらっしゃいます。このような大変な困難に直面する人々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、そうした人々の命と健康を守るため、自らも困難な状況にありながら尽力を続けられているすべての医療関係者に感謝の意を表します。

結核は世界中でいまだに深刻な課題ですが、他方で明るい話題もあります。電気のないところで撮影できる電池式X線ユニットや有望な段階にあるより効果の高いワクチンなど、新たな技術の開発です。このような技術が広く活用され、すべての人々、特に子どもや女性、高齢者のような弱い立場にある人々が結核から守られ、その技術の恩恵を受け、より良い結核の診断、予防と治療を受けられるようになることを願っています。

世界結核デーにあたり、皆でしっかり力を合わせ、結核をなくしていきましょう。

"Yes, We can end TB!"

※結核予防会ホームページにも掲載されています。(<https://www.jatahq.org/news/4009>)

結核予防会の仕事に携わって30年

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

秩父宮妃殿下は、1939(昭和14)年から50年以上にわたり結核予防会の初代の総裁を務められました。そして今から30年前の1994(平成6)年春に、私は結核予防活動に携わるようになりました。当初は、結核をはじめとする感染症について十分な知識を持ち合わせていませんでしたので、結核を含む呼吸器の疾病や結核予防活動についても少しでも理解を深めることができればと思い、折にふれて医療関係者から話を聞き、結核予防会の出版物や資料を読んで学びを深め、行事等に臨んでまいりました。この姿勢は今でも大切にしています。

30年の節目の年を迎え、今年の春、結核予防会本部と総合健診推進センターを久しぶりに訪れました。また先日は清瀬にある結核研究所に立ち寄りしました。隣接する複十字病院、東村山には新山手病院と保生の森(介護老人保健施設)があり、全国各地には支部をはじめ、地域の人々の暮らしを支える結核予防婦人会などの団体が活躍をしています。これらに関係する多くの人の努力と協力が人々の健康を守ることに繋がっていることに、深い感謝の気持ちを抱いております。

秩父宮妃殿下からのお言葉 複十字シール運動への取り組み

秩父宮妃殿下は、様々なお行事の中で、結核予防婦人会の活動にも力を入れていらっしゃいました。1965(昭和40)年より毎年夏に御殿場のご別邸近くのYMCA東山荘で開催されていた、結核予防婦人団体幹部講習会の行事や閉講式にご出席になり、数年後から地区別におこなわれるようになった幹部研修会にもお出ましになっていました。また「桐蔭学園」と呼ばれた保健師の研修の開講式にご臨席になり、毎年研修を修了した卒業生をお茶会に招かれ労われました^{1)・2)}。

総裁の仕事を引き継いだ翌年の1995(平成7)年2月に、秩父宮妃殿下が結核予防会の名誉総裁として保健師研修の卒業生を招かれたお茶会にお誘いをいただきました。それがご一緒した最後の行事でしたが、秩父宮妃殿下が親しく保健師と話されていたお姿を今も思い起こしております。またある時、結核予防会のお仕事で心がけられていることを秩父宮妃殿下にお伺いしたことがあり「健康が大事です」との率直なお言葉を頂戴しました。体調を整えることが難しく感じる時もあり、真にこのお言葉の通りと思うことが度々ありました。年齢を重ねる中で、自分の心や身体と向き合う時間をもつことが大切で

あるとより強く感じるようになりました。

お茶会から数か月後の1995年5月に、青森県で開催された結核予防全国大会に初めて出席し、全国から集まられた婦人会の方々にお会いしました。また1997(平成9)年から東京で開催されるようになった結核予防関係婦人団体中央講習会では、婦人会の方々とお話しするときに緊張したことをおぼえています。その中には、結核の患者数が多かった時代から活動を続けてこられた方々もいらして、複十字シール運動をはじめ結核予防活動に注ぐ熱意に心動かされ、地域でのご活躍に圧倒されました。お会いする度に結核について一緒に学び、人々の健康を支える活動にしっかり取り組めるようにしたいとの思いが募っていきました。

結核予防婦人中央講習会に参加して25年以上が経ちました。参加者が専門的な情報も含めて学び、互いの経験を語る場を心待ちにしています。各々の地域で抱える課題についても話し合い、各自の工夫や取り組みを知ることは、今後の婦人会の活動につなげる大事な機会です。婦人会の皆さまと、自分たちができることについて考え、よい形で行動に移していくことができればと考えています。



日本では毎年8月に、新しいデザインの複十字シールが作られています。手元にある2023年のシールのテーマは、世界中で困難な状況が続いていることから「祈りとお守り」でした。コロナ禍のときに疫病を封じる妖怪として紹介されたアマビエ、沖縄の魔除けのシーサー、端午の節句に日頃から共に働く農耕馬を労う行事に由来するチャグチャグ馬コなど、様々な「祈り」が込められた「お守り」です。人々が少しでも穏やかに健康に暮らせようという願いながら、季節のお便りやお届け物にシールを選んで貼っています。後日、このシールについて感想や質問をいただいたときには、国内外の結核とその他の肺疾患をなくすための活動を支援する「複十字シール運動」を全国の婦人会の皆さまが進めていることや、国内外の結核の現状についてお伝えしたり、結核予防会のパンフレットをお渡ししたりして取り組みをご紹介します。

結核療養の地、清瀬を訪ねて

今年4月下旬に、清瀬市郷土博物館を訪ねました。2年ぶりです。今回は、昨年改修された歴史展示室の常設展示「清瀬の歴史」の中の「結核」コーナーを中心に、館長のご説明を受けながら見学しました。療養所のパンフレットや病院の絵はがき、人工気胸器などの医療機器、病院の跡地から出土した患者の日用品などと共に、婦人雑誌が並べてありました。調べてみましたら、1950(昭和25)年に出版されたもので、清瀬の「東京都立小児結核保養所」(後の都立清瀬小児病院)で生活する結核に罹った子どもたちについての記事でした³⁾。



清瀬市郷土博物館での展示

郷土博物館を見学した後に、博物館が作成した地図を手にしなが、結核研究所の職員と一緒に清瀬市の結核ゆかりの場所を訪ねて歩きました。

清瀬の結核治療の歴史は、1931(昭和6)年に、南西部に広がる雑木林の一角に「東京府立清瀬病院」が開設されたことから始まるそうです。その敷地が最大だったときは、現在の清瀬中央公園から国立看護大学校周辺まであり、約1万8000平方メートル、東京ドームが2つ入る広さでした⁴⁾。清瀬中央公園には、「清瀬病院ここにありき」と記された記念碑があります。以前からそれがあるということを聞いていたこの記念碑を今回初めて見る事ができました。

清瀬病院は、戦争中に国の管理下の国立療養所清瀬病院となり、さらに傷痍軍人東京療養所を前身とする東京療養所と統合されて、現在の国立病院機構東京病院になりました。その敷地内にある「外気舎記念館」を訪ねました。「外気舎」とは、回復期の患者が大気療法や軽作業をおこないながら居住した建物です。72棟あったうちの1棟が記念館として残されています。木造の小さな平屋です。上下に大きく開けられるようになっている窓は、通気のために冬も開け放たれていたそうです。非常に寒かったであろう当時の患者の生活を想像しました。



東京病院敷地内の「桜の園」と看板

また、外気舎の近くには「桜の園」があります。戦中には療養所の食料自給のための畑として使われていた土地に、作業療法の一環として患者がソメイヨシノを植樹したと書かれた看板が立ち、木々が高く成長していました。小道沿いには小さな丸いタイルが貼られたカーブベンチがあり、療養していた人々がここで一休みをしたのだらうかと思いつつ、歩を進めました。

続いて2年前にも訪ねたアカマツ保全林へ向かいました。ここは都立清瀬小児病院の跡地で、子どもをやさしく抱く母親の記念像があります。きれいになった母子像の横で、清掃ボランティアの方が、松ヤニがつき蜘蛛の巣が張るブロンズ像の手入れの難しさや、この街への思いをお話くださり、こまやかな活動に胸を打たれました。

最後に、かつては結核研究所に附属する療養所の敷地だった、武蔵野の自然が残る松山緑地保全地域を訪ねました。当日は日差しが強く、汗ばむような陽気でしたが、ここの木陰に入ると風が涼しく、足元の草花や木々の間から聞こえる鳥のさえずりにいやされながら歩き、結核研究所に戻りました。

結核療養の地であった清瀬の街とそこで出会った人々から学んだことを大切にしながら、これからも結核予防会の活動に携わり、いつか再び清瀬を訪れることができたらと思っています。

参考文献：

- 1) 結核予防会『五十年のあゆみ』(1989年、結核予防会)
- 2) 秩父宮妃殿下を偲ぶ会『思い出～秩父宮妃殿下～』(1996年、結核予防会)
- 3) 「子供の結核病院」『婦人之友』(1950年11月号、婦人之友社)
- 4) 清瀬市ウェブサイト「市史編さん草子「市史で候」四十六の巻(1)「ここに清瀬病院ありき」第1回「ここにありき」」(2020年10月6日更新)
<https://www.city.kiyose.lg.jp/siseijouhou/kouhou/shishi/1001945/1001947.html>

写真で
振り返る

第28回結核予防関係婦人団体中央講習会

(2月7日・8日 KKRホテル東京)

講演①
結核予防会 尾身茂 理事長講演②
結核研究所 森亨 名誉所長講演③
結核研究所対策支援部 永田容子 副部長講演④
結核予防会 工藤翔二 代表理事情報交換会⑤
本協議会 山下武子 事務局長終講式では受講生76名を代表して
大分県結核予防婦人会国東市地域婦人会副会長
酒匂法子 様に謝辞をいただきました

中央講習会スケジュール

テーマ：～結核予防普及啓発のために～

●第1日目 2月7日(水)●

13:10 開講式

主催者挨拶 結核予防婦人会 会長
(代読：事務局長)
主催者挨拶 結核予防会 理事長
総裁お言葉 秋篠宮皇嗣妃殿下
来賓挨拶 厚生労働省
健康・生活衛生局感染症対策部長
「健康の歌」斉唱

13:50 写真撮影

14:15 講演① (45分)

『私と感染症との闘いの歴史』
公益財団法人結核予防会 理事長 尾身 茂

15:10 講演② (60分)

『ストップ結核をめざしてーコロナといっしょの結核対策ー』
公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨

16:20 講演③ (45分)

『スタディツアーの報告 カンボジア・ベトナムなど』
公益財団法人結核予防会結核研究所対策支援部 副部長 永田 容子

●第2日 2月8日(木)●

8:30 講演④ (45分)

『健康日本21 (第三次) タバコ病・呼吸器疾患対策』
公益財団法人結核予防会 代表理事 工藤 翔二

9:25 情報交換会⑤ (110分)

「よりそう」
公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 事務局長 山下 武子

11:25 終講式

主催者挨拶 結核予防婦人会 会長
(代読：事務局長)

主催者挨拶 結核予防会 理事長

修了証授与

受講生代表挨拶

「蛍の光」斉唱

第75回結核予防全国大会を終えて

特定非営利活動法人
東京都地域婦人団体連盟
会長 山下 陽枝



令和6年3月14
日・15日の両日、
結核予防会総裁秋
篠宮皇嗣妃殿下の
ご臨席の下、第75

回結核予防全国大会がリーガロイヤルホテル東京において開催されました。

結核はかつて国民病と言われた感染症の代表例でしたが、多くの月日と努力が重ねられ医学・医療の進歩や公衆衛生の向上により現在では適切な治療により完治する病気となっています。

令和4年には東京都も初めて低まん延状態となりましたが、全人口では10,235人、東京都でも1,193人が新たに結核患者となるほど依然として結核が我が国最大の慢性感染症であることに変わりはありません。

2022年の我が国の結核罹患率は前年より約11%低下し、人口10万対82となり本格的な低まん延時代を迎えており、今後様々な合併症を持つ80歳以上の高齢者と、増加が見込まれる高まん延国出生者の対策が特に重要な課題となるということです。

第一日目は、全国結核予防婦人団体連絡協議会定期社員総会、第2回理事会、続いて大会歓迎レセ

プションがありました。

第二日目は、全国結核予防婦人団体連絡協議会懇談会、写真撮影、昼食会があり、午後は研鑽集会がありました。

第1部テーマ「あらためて公衆衛生としての結核対策を考える」についての基調講演「コロナの経験を踏まえたこれからの結核・呼吸器感染症対策」演者に結核予防会理事長尾身茂氏、第2部シンポジウム4名のシンポジストよりそれぞれ発言があり、厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課長の特別発言、そして座長のまとめにより終了しました。

続いて大会式典、①開催あいさつ、②東京都知事あいさつ、④総裁秋篠宮皇嗣妃殿下おことば、③第27回秩父宮妃記念結核予防功労賞受賞者表彰、⑤来賓祝辞、⑥議事、⑦時期開催地について（岩手県）、⑧閉会あいさつで閉会しました。🍁

研鑽集会の発表を終えて

群馬県地域婦人団体連合会
会長 大竹 恵子



令和6年3月14
日(木)～15日(金)
リーガロイヤルホ
テル東京にて第75
回結核予防全国大

会開催の研鑽集会で演者として協力依頼があったと事務局長から連

絡を受け、令和5年度に関東甲信越地区結核予防婦人団体幹部研修会を当番兼として実施いたしましたのでお引き受けすることになりました。

他の演者の方は、日本訪問看護財団、新宿区保健所健康部保健予防課、結核予防会結核研究所の関係者と各分野でご活躍の専門家の方ばかりでした。それぞれの立場からお話をいただき、知らない事も多かったのですが、学んだことを地域の方々にもお伝えしたいという気持ちになりました。

関東甲信越地区における結核予防婦人会の活動報告では、研修会を通して正しい知識の普及啓発、複十字シール運動の継続など報告させていただきました。研鑽集会終了後、群馬県から参加された方、演者の方から声をかけていただき改めて安堵いたしました。

大会歓迎レセプションでは、結核予防会総裁秋篠宮皇嗣妃殿下よりお声かけを賜り、私共の活動を熱心にお聞きくださり今でもその時の様子が心に残っております。生涯の思い出となりました。

これからも、まず自分の健康管理をして結核予防に限らず皆が笑顔で暮らせるような社会になるため健康の大切さを伝えていくことが私たちの役割であると心新たにしました。

結核予防全国大会関係者の皆さま大変お世話になりました。🍁

第27回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞(個人)を受賞して

北海道健康をまもる地域団体連合会
会長 齋藤 ヨシ子



この度、秩父宮妃記念結核予防事業功労賞を拝受致しました事は身に余る光栄でございます。

恐縮と感激と感謝の深い思いと共に、ご尽力賜りました皆様にご心より厚くお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

思い返しますと、地域活動に参加致しました2000年頃の最初の研修は、札幌市が開催する結核予防運動に関する「結核と婦人会活動」の実践とノウハウでした。また、全国的に参加者を対象とした静岡

県御殿場での結核予防関係婦人団体中央講習会への参加は結核の知識を深め、啓発意識の向上と一体感を共有する全体的融合を抱く研修会であったと記憶します。

地元では、婦人会のリーダー格が次々とがんになり亡くなられ、がん検診受診率の向上にも奮闘し、がん予防運動・結核予防運動の2本のスローガンを掲げる啓発運動を実施し現在に至ります。

札幌市の会長は歴代女医として制定され現職から次世代への継続の道を閉ざされてしまい解散「札幌市北区健康をまもるつどい」のみ独立して活動する等、当時の新枝百合子会長の英断により道組織へ編制される事により現在に至っております。

健康をまもる事を目的に結核予防運動、がん予防運動、健康をまもる地域住民活動を継続し維持して行くボランティア活動は、目的を理解し賛同する楽しさや一体感を得て継続する心の豊かさが必要と感じます。

健康をまもる北海道地域団体連合会として、複十字シール街頭募金活動やがん予防のためのがん検診受診率の向上の啓発活動を主体に行政と連携し活動する私達は、公益財団法人北海道結核予防会、公益財団法人北海道対がん協会のご支援、ご協力を頂き、微力ながら協力して啓発活動を継続して行きたいと願っております。🍅

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 副会長・理事・監事就任ご挨拶

副会長

石川県結核予防婦人会
会長 能木場 由紀子



令和6年度理事会にて、全国結核予防婦人団体連絡協議会の副会長を拝命いたしました。思いがけずの大役

に責任の重さを痛感いたしております。

世界三大感染症の一つである結核は、肺の生活習慣病といわれています。結核予防に関する正しい知識と対策を行政と一体となって

推進していくことが重要であると思います。日本では結核は明治時代から「国民病」と呼ばれています。私たち婦人会の活動は毎年各県知事を表敬訪問し、複十字シール募金運動の理解と協力をお願いしております。また、諸団体と共に街頭啓発を通じて我が国から結核をなくすための粘り強い活動を継続しています。罹患率の低まん延化が進んでいますが、油断大敵を肝に銘じなければなりません。

100年近く続いている世界共通の募金活動であることを再認識し、開発途上国への支援につながる活動を会員相互に呼びかけ、より一層充実した運動の輪を広げてまいりたいと思っております。🍅

副会長

山口県結核予防婦人会
会長 藤家 幸子



令和6年度理事会において、全国結核予防婦人団体連絡協議会副会長への就任を拝命いたしました。身に余る重責を痛感致しております。

近年、日本国では結核患者が低蔓延国になり関係者一同喜ばしいことではありますが、コロナ禍において感染症の恐ろしさを改めて認識したことでもあります。

これまでに、結核予防活動に関わり多くの研鑽を積まさせていただきました。地元の県予防保健協会や中央幹部研修会では、「結核とは」世界3大感染症の一つであることの基礎知識や歴史とその背景などを学び、国際会議では結核予防について「BCGワクチネーション」を研究者や医療関係の方々が何度も何度も繰り返し発信されました。怖い感染症だからこそ乳児期からの予防接種が義務づけられています。

しかし、患者の多くが高齢者であることをふまえ、国民運動として広く結核予防のために健診車の利用を促進し、早期発見・早期治療が課題解決への第一歩だと意を強く致しております。更に、結核予防婦人会活動を推進して参ります。🐱

理事

茨城県健康をまもる女性団体連絡会
会長 櫻井 姚



この度、全国結核予防婦人団体連絡協議会の理事という重責をお引き受けすることになりました。身の引き締まる思いです。

全国の婦人会の皆様と手を取り合い、結核予防の啓発活動に取り組む所存です。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックもあり、結核をはじめとする呼吸器感染症についての関心は高まりました。また、日本では結核の低まん延状態にあるということですが、世界に目を向けると、2022年のデータでも130万人が結核で命を落としています。

世界の結核をなくさなければ日本の結核はなくならないという信

念を持ち、複十字シール運動、知事表敬訪問、その他健康啓発などを通して、行政と地域の懸け橋とならなければと強く思っております。どうぞよろしくお願いいたします。🐱

監事

千葉県東庄女性の会
会長 飯田 和子



この度、監事を務めさせていただき飯田和子でございます。至らぬ点が多々あると思います

が、今後の活動が適正に行われるよう微量ではございますが協力していきたいと思ひます。

以前、私が会長職の時は、県連として加入し活動してまいりました。諸事情により、二～三年休止状態でした。このような環境の中、市町村の退会、会員の高齢化、社会の価値観、団体の多忙化により活動が難しくなっております。

しかし、感染症に関しては、結核だけではなく、最近猛威をふるった新型コロナウイルス感染症という新しい病気も流行し、やっと落ち着いてきたところです。病気に関して正しい知識を得ることも必要です。

これからも全国結核予防婦人団体連絡協議会の更なる発展のため、監事という立場からサポート

させていただく所存でございます。皆様のご指導をよろしくお願いいたします。🐱

監事

神奈川県地域婦人団体連絡協議会
顧問（前会長） 石川 壽々子



今年度より監事を仰せつかりました。無事任務を全うさせていただきますよう、よろしくお

願い申し上げます。

結核予防婦人会が結核・呼吸器感染症予防のために、長年培われてこられた活動がこれまで同様に活発に展開されますよう願っています。地域では複十字シール運動を中心に、結核予防街頭キャンペーン等の啓発活動を行っています。日本は結核低まん延の水準を維持していますが、国の主要な感染症に位置付けられている現実があります。新たな感染者もありますが、一般の方の認識は依然として低いと感じています。

私たち婦人会員は、幸いにも中央講習会をはじめとした地区別講習会等へ参加する機会を通して、結核やその他の感染症について学ぶことができます。この学びを通して更に各地域で予防啓発を活発に展開していく必要があると考え、皆様と一緒に微力を尽くさせていただきます。🐱

禁煙ポスターのご紹介

結核予防会では「禁煙ポスター」を作成し、お配りしております。ご希望の方は、下記にお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

公益財団法人結核予防会事業部普及広報課

①お送り先の郵便番号・住所・氏名・電話番号と②必要部数をご記入の上、fukyu_hq@jata.or.jpにメールをお送りください。

なお、送料着払いとなりますことをご了承いただけますようお願いいたします。



複十字シール運動が始まります

運動期間 8月1日～12月31日

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会の皆様には、例年複十字シール運動にご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

2022年に新たに結核と診断された患者数は10,235人で、前年より1,284人減少し、日本は結核低まん延の水準を維持しております。しかし、新登録患者数全体の65%を占める70歳以上の高齢者と、20歳代の新登録患者のうち77.5%を占める外国出生者の対策は重要な課題となっております。また、世界では2022年に結核で130万人の方が亡くなっており、結核を発病した人の多くが適切な治療を受けることが出来ない状況です。今後も結核根絶に向けた対策推進の重要性について、複十字シール運動を通して伝えていきたいと思います。

今年も8月1日から複十字シール運動が始まります。皆様には各都道府県知事への表敬訪問、募金活動等、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

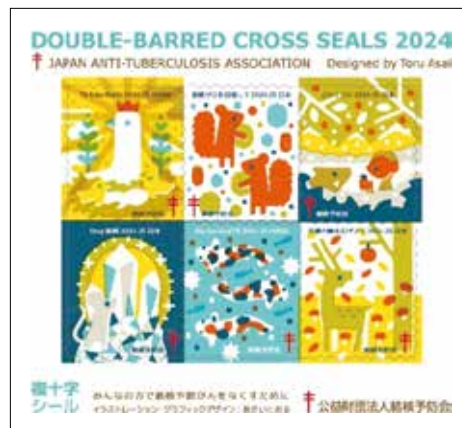
●令和6年度複十字シール ～自然との調和～

令和6年度のシールはイラストレーターのあさいとおる氏によるデザインで、「自然との調和」をテーマにしました。日本には花鳥風月という美しい風景を表す言葉があります。シールそれぞれに、自然の作り出した美しい風景と可愛らしい生きものたちが共に生きる姿を描いていただきました。

シールは大型シール（24枚綴り）と小型シール（6枚綴り）があります。複十字シール運動にお役立ていただければ幸いです。



大型シール（24枚綴り）



小型シール（6枚綴り）

シールぼうやと仲間たちの 新しいシールが出来上がりました！

お菓子の世界にやってきたシールぼうやと仲間たちが美味しそうなケーキやお団子を手にして嬉しそうな様子が描かれています。シールをご覧になった皆さんにお楽しみいただけたら幸いです。



公益財団法人結核予防会・募金推進課

ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



ちふれが、約束すること。

● 高品質・適正価格であること。

製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。

● 無香料・無着色であること。

肌にやさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。

● 全成分・分量・配合目的を公開すること。

品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。

● 製造年月をすべての容器に表示すること。

誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。



西暦 月 製造回数
製造記号の読み方 2017年 4月 1回目

● 環境問題に配慮すること。

毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。
ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



ちふれ

人材派遣に望むこと
ESSAが叶えます。

茨城県 人材派遣 労働大臣許可第1号

Environmental Seientific Service Administration
エッサ

株式会社つくばESSA

☎029-836-3636 Fax029-838-1301

305-0062 茨城県つくば市赤塚616-1